

令和4年9月22日

令和4年度 第2回 富岡小学校学校運営協議会

14:45～15:45（図書室）

【参加者11人（委員10人＜欠席山田智＞、教頭）】

＜各学級の学習参観＞ 5限 13:40～14:25

＜会議議事録＞

1 開会の挨拶 会長 横山 明夫

新型コロナウイルスの不安が消えない中、落ち着かない世の中となっている。その中でも子どもたちの授業の様子を見ると、一生懸命に学習していることがよく分かる。子どもたちをよりよく育てるために、今日のこの学校運営協議会では、皆さんから活発な意見交換をしていただきたい。

2 これまでの学校経営と今後について 校長 石田 浩久

- ・コロナ禍ではあるが、感染症対策をしながら予定通りの教育課程で教育活動を行っている。これまで大きな事件や事故がなく、児童は元気に学習や行事などに取り組んでいる。
- ・9月20日（火）の台風14号では、上越市内の小中学校は臨時休校となった。学校には被害はなかった。
- ・2学期に3名の転入生があり、全校児童数は101名となった。
- ・来年度の新1年生は、現時点では25名を超える予定である。

3 協議

（1）前期学校評価の結果と今後の取組についての説明 教頭 阿部 祐治

＜児童アンケート＞

- ・児童アンケートでは、13項目中、11項目で肯定的評価（A+B）の数値が80%を超えた。80%を超えなかった2項目も79.4%と77.4%であり、比較的よい数値だったと言える。多くの児童が学習・生活・健康の項目において、努力し、頑張ったことが分かる。新型コロナウイルスの影響で活動が制限されることが依然としてある中、できること、やるべきことをきちんと行えたことは、大変立派だったと考える。

＜保護者アンケート＞

- ・保護者アンケートでは、10項目中、8項目で肯定的評価（A+B）の数値が80%を超えた。その中でも「学校は、保護者・地域と協力して教育活動を行っている」は、97.2%と高評価だった。総合的な学習の時間では、5年生が平岡の猪田さんからご指導を受けて米作りを行っている。また、6年生は、保護者や地域の方から仕事に関して話を聞いたり、実際にその仕事を体験させていただいたりしている。また、ク

ラブ活動や文化祭の体験活動等、地域の方から講師をしていただき、子どもたちの活動を充実させることに役立っている。今後も保護者や地域の方と連携を取りながら教育活動を充実させていきたい。

<課題に関する今後の取組>

○知育部

- ・児童が学習に進んで取り組んだり、楽しいと感じたりし、さらに生活につながるような課題設定を工夫する。
- ・学びの足跡や手掛かりになる視覚的支援（掲示物など）を工夫する。
- ・読書週間（学期一回）の実施
- ・読書週間の内容を、委員会の児童が主体的に考えられるようにする。
- ・カリキュラム表（単元配列表）に位置付け、見通しをもつ。（年度始め、担任）
- ・学年だよりに単元テストなどの結果と分析を載せ、実態を家庭に伝える。
- ・Webテスト後の振り返りを実施する。
- ・NRTの結果を分析し学力向上につなげる。学年の平均や傾向を保護者にも伝える。

○徳育部

- ・異学年がかかわって楽しく遊ぶ、毎月のスマイルタイムの計画と遊び内容の工夫。
（スマイル班及び担当学年担任、毎月、所定の遊び場所、） また、振り返りカードによる丁寧な見取り
- ・言葉遣いについて、日常的に継続的に指導していく。（担任。授業場面、休み時間、特別活動等の時間で日常的に。）
- ・月のめあてに関わらせて、優しい言葉遣いを取り上げたり、具体的な場面の中で考えさせたりする。（生活指導主任。集会や放送で。）
- ・11月のいじめ見逃しゼロスクールの取組の際には、具体的な場面の寸劇等をとおして、ふわふわ言葉の良さを実感させ身に付けさせる。（生活指導主任、生活環境委員会児童。11月のいじめ見逃しゼロスクール運動の際の全校集会。）
- ・毎朝玄関での検温の際の「おはようございます」のあいさつを生活環境委員会がチェックし、昼の放送で全校に伝える。2学期は毎朝70人を目標に、特にあいさつの良い班や班長を称賛する。
- ・廊下歩行のマナーについて、強調週間を設けて具体的に指導する。（担任、生活指導主任、生活環境委員会児童。掲示の工夫。放送等による呼び掛けと評価）さらに、とみおかスタンダードの意識化を図る。

○体育部

- ・体育で活用するカードを積極的に共有していく。
- ・行事等での全校統一のカードの活用を増やす。
- ・体力テストの結果の分析を担当職員に配って活用を促す。
- ・道具の活用を促進するための準備を行う。 また、事後の指導や後片付けなど徹底する。

- ・マラソン大会の目標設定を行いやすくするために 6 年間使用できるカードを作成し、前年度の記録を提示する。
- ・生活リズム習慣の取組に対して、各学級でのデータ・資料の活用のよい事例を紹介する。
- ・カードの活用において一人一人の課題が明確になるように取り組み方を工夫する。

(2) 授業での子どもの様子や②を受けた今後のCSとしての取組について

<授業参観での児童の様子について>

- ・先生方が授業を工夫していたので感心した。
- ・久しぶりの授業参観で道德の授業を見た。児童は、一生懸命に学習していた。大人も参考になる授業内容だった。
- ・保育園の頃の様子を知っているが、小学校に入り、心も体も成長していることがよく分かった。
- ・給食から児童を見ていたが、コロナの影響で黙食していたのが印象に残った。体育の授業では、グループで仲良く運動に取り組んでいた。
- ・体育の授業参観はあまり見たことがなかったので新鮮だった。6年生は、ゲームのために友達と相談したり、楽しそうに運動したりしていた。

<あいさつについて>

- ・廊下ですれ違うとき、子どもたちからあいさつをしてきた。あいさつがよくなっていると感じた。
- ・ただ、高学年はあまりあいさつしていなかったように見えた。
- ・富岡地区で時々、道端に立つことがあるが、毎回決まってあいさつしてくれる児童が3人いる。
- ・児童は、なかなかあいさつしてくれない。子どもたちに自分が誰だか、知られていないようだ。また、不審者等の影響もあるかもしれない。
- ・まずは、家庭でのあいさつが大切だと思う。朝起きたら、お父さんやお母さんにあいさつする習慣を身に付けさせたい。

<学校への教育支援について>

- ・学校には、様々な困難を抱えている児童がいる。それぞれが支援を必要としている。そこで、上越教育大学の学生等、ボランティアをお願いしている。
- ・保護者や地域の方にもお願いはできないか。
- ・地域の読み聞かせのボランティアを利用している学校があると聞いたことがある。
- ・行政から人材を補ってくれるような支援はないのか。
- ・教育委員会からのお金や人材の支援は、特別事情がない限りは、ない。
- ・今後、地域として協力できることを検討していく。

<今後の体育大会について>

- ・今はコロナ禍で児童だけの体育大会になっているが、コロナが終息した後の体育大

会のあり方を考えておく必要がある。

- ・地域としては、集まる機会があまりない。体育大会で人数を集めて盛り上げたい気持ちがある。特に若い方に出てほしい。
- ・小さな地域では、児童数や大人の人数も減ってきているので、人を集めるのが大変である。
- ・小さな地域でも、楽しい交流ができるので協力的な方はいる。
- ・地域の行事は、子どもたちにとって大きな経験となる。できることならば、地域の体育大会として続けていただきたい。
- ・地域によって人数や事情が違うので、今までと同じような体育大会はできないかもしれない。現状でできるような体育大会に変えていくべき。

<メディアについて>

- ・ゲームが好きすぎて困っている。我が家では、時間制限やルールを決めてやらせるようにしている。
- ・頭脳が一番発達するのが、小学生の時期である。ゲームのやらせ過ぎは、悪影響が出る可能性が高い。
- ・学校では、チャレンジ週間を学期に1回設定し、メディアとの付き合い方を考えさせる取組を行っている。
- ・その期間は、頑張れるが、日常化するのは難しい。各家庭でルールを守らせるように工夫する必要がある。
- ・悩んでいる保護者は、少なくない。学年懇談会やPTA等で話し合う機会をつくるのもよい。きっとよいアイデアがもらえる機会になる。

<課外活動について>

- ・今後、中学校では部活動の地域移行が始まる。ある地域では、課外体育・音楽の活動をやめる小学校がいくつか出ている。富岡小学校では、しばらくは課外活動を続けていく方針だが、今後の状況等を考えながら、検討していく必要がある。